寒水掛踊り

http://digitalarchiveproject.jp/information/寒水掛踊り

掛踊(かけおどり)とは、寒水(かのみず)地区白山神社に古くから伝わる例祭で、毎年 9 月第 2 日曜とその前日に行われます。明治中頃までは、旧暦 8 月 1 日に奉納され「八朔(はっさく)祭り」とも呼ばれていました。地元男子のみで構成され役者は総勢 130 人。貴重な伝統行事として今に至るまでしっかりと守り継がれています。

8 月お盆が過ぎると、慣例に依り保存会が主体となって役者割りを行い、その後毎夜稽古が始まります。9 月初旬には区民総出で「花切り」と呼ばれる祭礼用具の準備が行われます。掛踊は約 300 年間踊り継がれており、神々へのご馳走として、世の平安・豊年万作を希うため、また旱の時は雨乞いの祈りを込めて奉納されるお祭りにあたり、同時に住民たちの心の和をあたため合う行事であります。伝説によれば、掛踊は宝永 6(1709)年、隣村の母袋(もたい)村から寒水に伝わったとされ、当時掛踊とともにあずかったという十一面観音や、神社建立の棟札も残っています。明治の末頃までは、毎年掛踊の日に母袋村から声自慢の人が数人、峠を越えて踊りに来ては社前で寒水の人たちと歌の掛け合いが行われ、いっしょに輪になって踊られていました。掛踊の名称は、この掛け合いによるものといわれています。

001_2017寒水掛踊り【明宝振興課】000

002_2017寒水掛踊り【明宝振興課】001

003_2017寒水掛踊り【明宝振興課】002

004_2017寒水掛踊り【明宝振興課】003

005_2017寒水掛踊り【明宝振興課】004

006_2017寒水掛踊り【明宝振興課】005

007_2017寒水掛踊り【明宝振興課】006

008_2017寒水掛踊り【明宝振興課】007

009_2017寒水掛踊り【明宝振興課】008